



INFORMATION

“半日コース” 【城山エコミュージアムツアーのお知らせ】 テーマ：新・城山公民館周辺の史跡めぐり

日時：令和3年10月3日（日） 9：00～12：00（雨天中止）
 集合：城山公民館1階入り口前（受付8：30～）
 定員：15名（先着順） 参加費：無料
 申込み・問合せ 9/1～ 城山公民館 TEL 042-783-8194



行程 城山公民館・川尻八幡宮・横穴墓・桂昌寺跡・榛名神社・大正寺・
 かんば坂・久保沢観音堂・解散・（解散後公民館へ戻ります。）

- *1 マスクの着用をお願いします。
- *2 当日、発熱等で体調が悪い場合は、参加をお断りすることがあります。
- *3 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては事業を中止する場合があります。

※ガイドブック改訂版を発行しました！

右の写真は、令和3年3月末城山公民館発行
 「城山エコミュージアムの旅」&ガイド資料
 お問合せは城山公民館まで。



城山検定 解説

答え：2. おしゃもじさま

町屋自治会館近くにある祠はおしゃもじさまとされています。悪いものは口から入るとの言い伝えで、それを防ぐおしゃもじを祀りました。地域の人々によって現在も5月5日に例祭が行われています。

おしゃもじさまに備えられている杓子を借りて帰り、咽喉や風邪の患部をこの杓子でさすると快癒するといひ、ご利益があったら新しい杓子を更に一本添えて納める風習があります。最近まで、町屋の例祭日には、新しいしゃもじが各人に配られてみな家にもちかえって床の間その他に祀りました。

問題の欄に掲載の写真右手にある灯籠は、火防せの神として信仰が厚い「秋葉大権現」。後ろに文政十年丁亥年の文字があります。文政5年（1822）は、日本最初のコレラの流行があり、その後、江戸の終わりから明治にかけてコレラをはじめ腸チフス、麻疹、風邪、天然痘などの疫病が流行しました。それを恐れて「町谷邑講中」が建立したと考えられます。

（出典：城山町史4 資料編 民俗）

（田畑 房枝）



編集後記

なかなか終息しないコロナ禍ですが、ワクチン接種に期待して、今年度こそ計画したツアーが開催できることを祈ります。

ツアーでは、新・公民館の周辺の貴重な場所をぜひ紹介したいと思えます。通信では、ツアーに先駆けて見どころを少し紹介しています。（田畑 房枝）

企画/作成：

相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館
 TEL：042-783-8194【直通】
 FAX：042-783-1721



ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ <http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>

城山エコミュージアム通信

令和3年（2021）8月15日 第40号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



久保沢観音堂



の地域で盛んであった養蚕祈願などであった。久保沢観音堂は津久井三十三ヶ所観音霊場の五番札所に定められている。

明治27年（1894）を基とする60年に一度廻ってくる甲午（きのえうま）を大開帳とし、12年に一度に本開帳、その中間の6年ごとの子年に半開帳と言われてお堂が開かれる。そして、毎年10月の9のつく日、すなわち10月9日は初くんち、10月19日は中くんち、10月29日はしまいくんちという縁日で賑わう。



百体観音像

（相模原市有形文化財に指定されている）

城山総合事務所を右手に見て西方へ直進すると地元の人が温泉坂と呼ぶ急坂がある。それを下りきった右手の小高い所に久保沢観音堂が鎮座している。

この観音堂は現在谷ヶ原の大正寺の所属であるが、明治39年（1906）に桂昌寺が類焼によって焼失したため大正寺に引き継がれた。

ご本尊は聖観音菩薩であるがご本尊を囲むように百一体の観音石像がまつられている。坂東一番から三十三番、西国一番から三十三番、秩父一番から三十四番（秩父二十一番は2基ある）現在まで1基も欠くことなく維持されている。形状は立像、座像、半跏像の丸彫りまたは浮彫されており、それぞれに彩色が施され背丈は24～52cmである。

各霊場の最終番の像の光背に刻まれた造立年代と経過を示す銘文があり、それによると、造立は明治11年（1878）に桂昌寺の住職山本溪山が発願して明治27年（1894）に完成、同年4月溪山和尚によって発願供養されたことが刻まれている。像を刻んだのは長野県高遠の石工北原祥重（七兵衛）とある。

各像の寄贈者は久保沢を中心に現在の伊勢原市域、川崎市域、東京都、埼玉県、群馬県などの在住者がみられる。造立目的は先祖供養やこ

久保沢観音堂の西隅に格子観音開きの小さな祠がある。これが市神神社と伝えられている。

かつて久保沢市（いち）が盛んであったころ久保沢市で商売されていた人々から熱く信仰されていたのではないかと伺われる。「市守の神」を祀るのは神奈川県下では珍しい祭礼であった。今も毎年8月には「市守祭り」が開催されている。

（久保沢の昔、むかし、少し昔を語る会 研究資料より）
 （田中 次雄）



市神神社



今回のトピック ■特集「久保沢観音堂」■城山探訪「苦久保」■しろやまミニ図鑑「セミ」■城山検定■活動報告■インフォメーション「ツアーのお知らせ」、ガイドブック発行



城山探訪

城山公民館周辺・苦久保

ここは旧川尻村字苦久保の地である。古人の話によると、昔は「窪」の名のごとく、三方が傾斜の土地で松、杉、桧などが生い茂っている昼なお暗い場所であった。『久保沢こぼれ話』によると「わが叔父七之助が川尻村の切絵図を作るとき、明治9年(1876)、此処は字名(あざな)なし。一方苦窪(ニガクボ)には昔から苦窪稲荷がありたるより、字名を「苦窪」とした。」とある。昭和57年(1982)『城山の地名』刊行に当たり、私はこの「苦久保」という変わった地名に戸惑い、古老に相談して「苦木」があった所ともいわれていると記した。



公民館前の標柱

苦久保遺跡の発掘



発掘当時

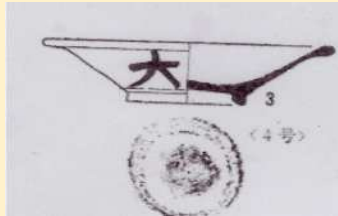
朱書には呪詛(じゅそ)など非日常的な性格が指摘されるものの、「大」の字のもつ意味も含めて解釈は容易ではありません。今回の指定資料は朱により文字が記されています。(中略)。県内における平安時代の朱書土器は平塚市や海老名市、藤沢市などで見つかっています。県北の出土例は極めてまれであり、古代相模の国の北辺域の歴史を語る上で大変重要な資料です。」と相模原市文化財指定解説文に紹介されている。

この発掘によりここは相模の国であるが、文化的には武蔵国や甲斐の国との接点であったと推定された。また、苦久保の発掘でも縄文の炉穴があり、縄文時代早期及び中期に属する土器片が発掘された。

発見の第一は、四角形の竪穴式住居が8棟と倉庫2棟がある「ムラ」であったこと、また住居址が四角形で縄文時代の円形の竪穴式住居と違って平安時代の建物であったことがわかった。

第二は、朱書土器の発見である。城山地域で発見された最古の墨書土器4点が発掘された。土器片には「田」「平」などの中に「大」の赤色文字があった。この朱書土器が平成30年(2018)相模原市指定有形文化財(考古資料)として登録された。

「この土器は9世紀末から10世紀初めの竪穴住居跡から出土しており、全体の3分の1が欠けていますが、表と裏に「大」の朱書が認められます。



朱書土器の図

(樋口 孝治)

城山検定

問題

町屋自治会館近くにある祠です。これは何でしょう？

1. お稲荷さま
2. おしゃもじさま
3. 天神さま



セミ

セミは我々にとってなじみの深い昆虫だと思う。姿は確認できなくても鳴き声により存在を確認でき、夏の季節を代表する昆虫である。7月半ばころからまずニイニゼミが鳴き始める。

しばらくするとアブラゼミが鳴き始め、ヒグラシ、ミンミンゼミが登場する。8月の夏の盛りにまれにクマゼミが鳴く。

高校野球が終了する8月20日ごろからはツクツクボウシがゆく夏を惜しむように鳴く。

昨年はニイニゼミの鳴き声を普段こんなにいるのかと思うほどたくさん聞いた。アブラゼミの発生が7月31日ごろと遅く、普段ならアブラゼミの音量でかき消されていた音量の少ないニイニゼミの声がよく聞こえたからと思われる。ニイニゼミは小さいながら翅の一部が透明で、胸の部分のM(Wにも見える)が見られる

地味だがきれいなセミだと思う。クマゼミは午前中だけ音量大きく慌ただしく「シャ、シャ、シャ」と鳴くので他のセミが鳴いていてもよく聞こえる。城山ではなかなか姿は見えないが、黒くて大型のセミである。関西地方では都心部にも増えていてほかのセミを圧倒しているが、城山のように少しだけ鳴く方が喧しくなくてよい。(山口 雅之 文・画)



ニイニゼミ
全長32~40mm



クマゼミ
全長60~65mm



※城山エコミュージアム委員会全体会 4月18日(日)開催

コロナ禍が続くなか、新年度が始まりました。全体会では、委員会の前年度の事業報告と、毎月の定例会と学習会、年2回の通信の発行、主催行事など、今年度の事業計画を話し合いました。先行きはわかりませんができることをしようと、計画を進めていくことを確認し、令和3年度の事業計画と予算が承認されました。

開催予定主催行事：令和3年10月3日(日)城山エコミュージアムツアー
令和4年2月13日(日)城山エコミュージアムのつどい

※学習会開催 (学習会は、会員の興味を持っていることを研究し発表する場です。)

- ・6月2日(水) テーマ：苦久保遺跡について 担当：樋口 孝治
今年度のエコミュージアムツアーで取り上げる「苦久保」は城山公民館周辺の地名。遺跡も発見されているところ。パワーポイントを使って、遺跡発掘などの説明をされました。
- ・7月7日(水) テーマ：南津鉄道について 担当：佐々木 徹

関東大震災の復興を目的とした私鉄の計画がなされた時代、城山でも南津鉄道(なんしんてつどう)という、川尻-相原-多摩-ノ宮を結ぶ鉄道計画がありました。城山総合事務所近くに始発駅は作られましたが出発中、世界大恐慌により生糸の大暴落があり、計画は頓挫したといえます。かつての地図や株券などの貴重な画像を見て、幻の鉄道が想像されました。

学習会の予定 (定例会開催時 9:00~9:40)

- 08/04 河尻之郷地話水帳
- 09/01 小倉山
- 10/06 庭の葉草について
- 11/10 郡制度及び津久井郡
- 12/01 名もなき草こそ

- 01/12 ナラ、マツ枯れ
- 02/02 顕鏡寺、雲居寺
- 03/03 桜あれこれ(文様)

*テーマ・予定日は変更になる場合があります。公民館にお問合せ下さい。

